



NPO法人リエラ
 〒877-0044 大分県日田市隈2丁目1-9
 電話(代表) 080-8582-5914
 電話(移住専用) 090-1452-4110
 電話(能登町支援) 080-6421-0142
 メール info@re-area.org



NPO法人リエラ
**2024年度
 事業報告書**
 5年のあゆみ



Rearea 2024
 annual report
 Five years of
 history

リエラ5年のあゆみ



毎年開催される女子会は、交流会の中でも人気！お友達が増えること間違いなし！



2020年度 ▶▶▶

●福祉ボランティア専門研修の(初)開催(委託:大分県社協)



スタート



H29年九州北部豪雨
みなし仮設住宅交流会開催



日田市災害ボランティア講座
(初)開催(委託:日田市)

- 2019年8月佐賀豪雨
@佐賀県武雄市(発災)
- 台風19号
@宮城県丸森町(発災)



移住女子会の(初)開催
(委託:日田市)

- 減災シンポジウムin中津市の
コーディネート業務の受託(委託:大分大学)
- 令和2年佐伯市水害
(発災)



令和2年7月豪雨(発災)



防災サバイバルキャンプの(初)開催
(助成:一般財団法人 九電みらい財団)



大分県防災士キャリアアップ研修の(初)開催(委託:大分県)

2019年度 ▶▶▶

●法人設立

スタッフ森山・
小林が入職!



7月にスタッフ・藤原が入職!
みんなのお父さん!



日田市体験型防災プログラム事業の(初)開催(委託:日田市)



くまちゃん家東屋建設(助成:NHK
厚生文化事業団 わかば基金)

2022年度

- 個別避難計画に関する
取り組み(委託:日田市)



令和3年8月豪雨
@佐賀県武雄市(発災)



令和3年8月豪雨
@日田市(発災)



コロナ禍の取り組み/
フードパントリー

- 令和2年7月豪雨/復興新聞の発行、みなし仮設住宅訪問
- 要配慮者の避難支援を考える勉強会を(初)開催(日田市委託)



日田市移住支え合い事業を
(初)受託(委託:日田市)



養護老人ホーム中津市豊寿園と
BCPに関する事業開始(委託:中津市社会福祉協議会)

- 令和2年7月豪雨に関する
避難行動の実態調査及び復興に関する意識調査
(委託:大分大学)
- 日田市自主防災組織組織の避難所運営マニュアル完成(委託:日田市)



ウクライナからの避難民受け入れ



ウクライナ避難民の
ヴェロニカさんは日田で
自転車に乗れるように!

2023年度 ▶▶▶

- 災害×福祉を考える勉強会の
(初)開催(委託:大分県社協)

福岡空港で涙のお別れ



ウクライナからの避難民の帰国



スタッフ佐藤が入職!
リエラの頼れる事務員さんです!

日田市・大明地区で宝探し!
地元の方とお友達になった移住者の方もいます!



台風14号
@由布市、延岡市(発災)

- 西部地区合同移住者交流会の(初)開催(委託:大分県)
- 移住者交流大運動会の(初)開催(委託:日田市)



災害時の愛玩動物同伴避難の土台づくり事業の(初)開催(委託:日田市)



令和5年7月豪雨
@日田市(発災)

- タイムライン研修の(初)開催(委託:大分県)
- 南海トラフ地震等防災力向上事業の(初)開催(委託:宇佐市)
- 令和6年能登半島地震(発災)



大明地区移住体験ツアーの(初)開催(委託:日田市)

- おおいた マイ・タイムラインガイドブック完成(委託:大分県)



現在



活動助成

- 赤い羽根共同募金(2019年度、2020年度、2021年度、2023年度)
- 日本財団(2019年度、2020年度、2021年度、2022年度、2023年度)
- NHK厚生文化事業団 わかば基金(2020年度)
- 一般財団法人九電みらい財団(2020年度)
- シビックフォース(2020年度)
- YAHOO基金(2020年度、2021年度)
- 休眠預金(2021年度)



リエラ5年のあゆみ ～これまでとこれから～

スタッフコメント 松永 謙矢

2019年、次の災害に備えるためにNPO法人リエラを立ち上げました。令和2年7月豪雨をはじめ、大分県内でも多くの災害が発生し活動する中で、その度に僕自身がリエラという存在に救われたと思っています。これまでに印象的だったのは、災害対応はもちろんのこと、ウクライナからの避難民支援です。「外国人支援まで手を広げたのか」と言われたこともありました。人生は山あり谷あり、誰かに手を貸してほしいタイミングがあるはずで、それは国籍や背景、被災や移住など理由を問わず、突発的な出来事にできることをできる人と一緒にやることを続けてきたつもりです。行政が得意なこと、社協が得意なこと、民間やNPOが得意なことはそれぞれ異なります。穏やかな日常が続くことが一番ですが、そうではない時に、これからも“Waving the Flag”を続け、行動し続けたいと思っています。



松永から大分県防災対策企画課長・山口 満さんへインタビュー

Q リエラに対する率直な思いを教えてください。

A 松永さんの言葉で心に残っているのはウクライナ避難民支援の際に「なぜ災害支援をやっている団体が避難民の支援なのか」という質問に対し「故郷を追われた、居場所がない、という意味では災害でも移住でもウクライナ避難民も同じ」という言葉です。被災者目線、被災者発の考えで活動しているなと思います。

Q リエラの課題は何だと思えますか？

A 思いを同じくする人たちと共同・協力ができればいいのかなと思います。いろんな活動を行っている方々と横断的に活躍されることを期待しています。

Q リエラの未来に一言お願いします。

A 5年間活動してきて、組織としての曲がり角に来ていると思います。日田という人間関係に支えられていると思うので、今後もその関係性を大事にしながら活動を続けてほしいと思います。

お話を伺った山口 満さん

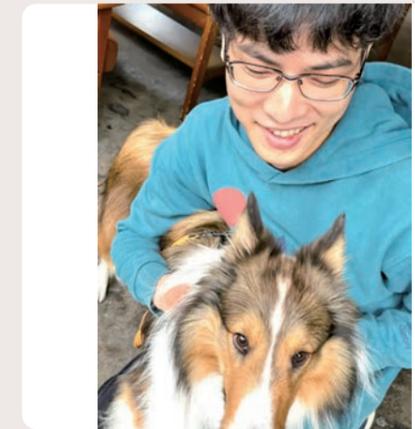


ウクライナからの避難民受け入れと支援



スタッフコメント 森山 甫

私がリエラに入職して最初の仕事がウクライナからの避難民支援でした。短い間ではありましたが、避難民の皆さんの生活のお手伝いできたことはとても嬉しかったです。避難民の皆さんは、最初は言葉がわからない、文化も違う、食も違う、気候も違う、と違うことばかりでストレスが多かったと思います。でも、だんだん話をする時間が増えるにつれて、困りごとの共有や心が打ち解けていくのはとても印象的でした。この活動は私の中でもとても大事な活動でした。



森山から日田市に避難していたイリナさんへインタビュー

Q お久しぶりです。お元気にしていましたか？

A お久しぶりです。ウクライナに帰ってから、娘2人は大きく成長し、末っ子は戦争のストレスもあるようですが、元気に暮らしています。成長した姿を日田の皆さんにお見せしたいですね！

Q それはよかったです！日田での暮らしを思い出しますか？どんなことを思い出しますか？

A よく思い出します！三隈川を散歩したこと、花見をしたこと、日田川開き観光祭で花火を間近で見たこと、たくさんの思い出があり、また経験したいです。

Q リエラは最初どんな印象でしたか？帰国する時にはどんな印象に変わりましたか？

A 最初は正直よく分かりませんでした。日本人が優しいのは知っていましたが、知らない街、知らない言葉、

知らないものがたくさんでした。でも、リエラの人々と話していくことで少しずつ不安がなくなりました。でも最後まで言葉の壁は感じました。

Q リエラができて6年経ちました。リエラへのメッセージがありますか？

A たくさんの「ありがたい」と「頑張ってるね」です。今も日本の困っている人のために頑張っていると思うので、応援しています。

Q 支援してくれた人にメッセージがありますか？

A 私の知らないところで手助けを繋いでくれた人、お金を募金してくれた人、仕事を探してくれた人、いろんな人がいたと思います。その人たちに心から「ありがとう」です。

インタビュー時のイリナさん



現在のウクライナでのイリナさん一家



避難民のヴェロニカさんの生活の様子(2022年7月)

リエラ5年のあゆみ ～これまでとこれから～

スタッフコメント 藤原 精三

令和2年7月豪雨災害で被災し、「みなし仮設住宅」に入居している被災者を訪問して、困り事や再建のヒアリングを行い、被災者の意見を関係者と共有しました。現在も交流が続いている被災者もたくさんいます。また、日田市以外でも武雄市や延岡市、能登半島地震の災害に対しても支援を続けています。人と人の繋がりが支援には欠かせないことを学ぶことができました。



■令和2年7月豪雨災害のみなし仮設住宅訪問



藤原から会員（一社）あまみら・近藤 真平さんへインタビュー

Q NPO法人リエラが発足して5年が経ちました、現在までどう関わってきましたか？

A 2019年NPO法人リエラの発足当初から関わり、現在に至っています。特に、「令和2年7月豪雨災害」では、天ヶ瀬温泉街の災害復興と一緒に活動して、地元の再建支援に奮闘していただきありがとうございました。

NPO法人リエラの5年間の活動を思い返せば、豪雨災害やウクライナ人道支援、能登半島地震支援と多岐にわたり被災者の心の支えになったことと感じています。リエラには、災害後のボランティアセンターの立上げや行政手続きなど専門分野を担っていただき、私たちはその分温泉街に根ざした支援に集中することができ助かりました。

Q NPO法人リエラの今後の活動に一言お願いします。

A 今後のリエラに期待することは、これからも行政や被災者のセーフティネットで繋がりながら活動を伸ばしてほしいと願っています。

お話を伺った近藤 真平さん



スタッフコメント 小林 理恵

‘22年5月より移住担当として入所し、入所当初、毎日予定が盛りだくさんで、その合間を縫うように電話で相談対応。業務をこなすことで精一杯でしたが、その業務の一つ一つが人の人生をお預かりする仕事。自分の理想とする働き方と相反した責務の大きさに2年程悩みました。そんな中、入所2週間で福岡の個別相談を任されました。もともと人見知りなので(笑)、頭真っ白で反省点しかない相談対応でした。すぐにギブアップして当時の上司や、応援団の坂本団長に応援していただきました。そうやって有難いことにいつも誰かに支えて頂きながら3年が過ぎ去りました。今もなお「助けて!」と言ったらすぐに飛んできてくださる坂本団長にリエラについてお話を伺ってきました!



小林からひた暮らし応援団長・坂本 竜一さんへインタビュー

Q リエラとは立ち上げ当初から関わりがあるとのことですが、‘21年から移住業務がリエラに委託され、ぶっちゃけどう感じますか？

A まず立ち寄りやすくなった!そしてコンテンツの内容が面白いし、中身も濃いものになりました。応援団自体のボリュームも大きくなったし、その結果として移住者数が県内1位になったり、‘24年には目標としていた「消滅可能性都市」から脱却することができたと思います。

Q 坂本さんが応援団の団長を引き受けたことの大きな要因は、日田市が「消滅可能性都市」を脱却することでしたね!では逆に、リエラにこれから期待することは？

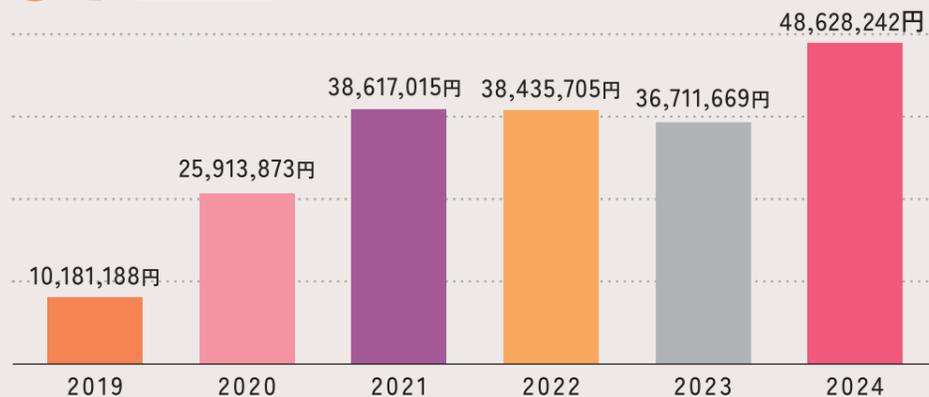
A 一番難しいことだと思うけど、やっぱり「自治会」で

すね。移住して良しではなくて定住していくためには、もう少し自治会の受け入れ態勢ができてくると良いと思うのだけど。行政と一緒にやる場面と、行政では言い辛いけどリエラだからこそ言える場面とあるので、そこに期待しています!

お話を伺った坂本 竜一さん



01 経常収益



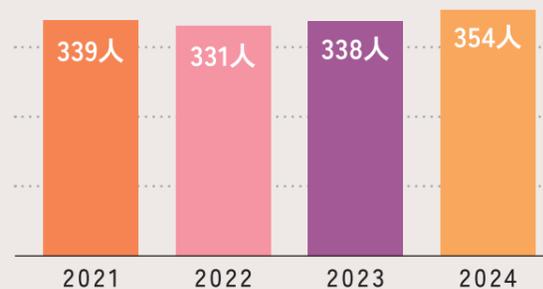
02 受託事業数

2019	2件
2020	9件
2021	11件
2022	10件
2023	8件
2024	6件

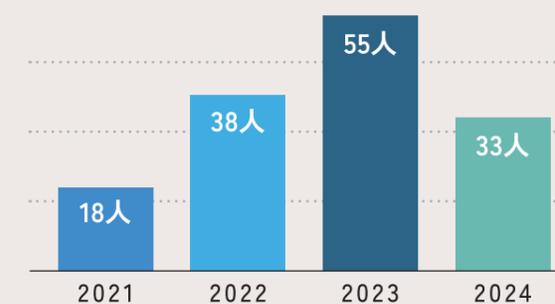
04 日田市への移住者数の変化



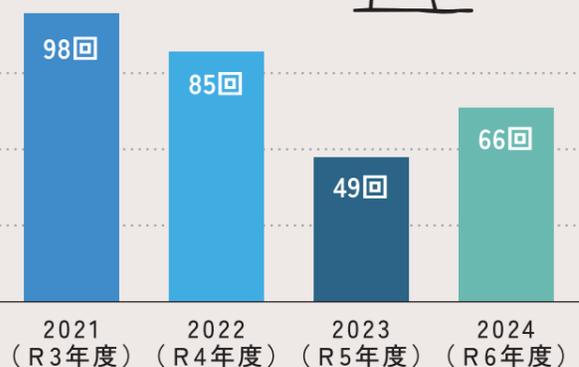
■日田市への移住者総数



■空き家バンクを利用した移住者



03 講演会数



スタッフコメント 佐藤 麻央

事務員なので基本事務所に常駐しているのですが、本当に様々な人が訪れます。移住希望者、防災講演会の依頼、災害支援の協力要請。リエラで働いているからこそ出会えた人、再発見した地元の魅力、防災への取り組み、災害支援の様々な方法。知らなかった、知らずしなかったことを日々知識としてインプットしている感覚です。今後のリエラの活動も多岐に渡るとお思いますので精一杯頑張ります!!



災害支援

令和6年能登半島地震・奥能登豪雨

1月1日の能登半島地震発生以降、石川県能登町及び輪島市町野町にて支援活動を開始し、緊急期は様々な団体と連携して、以下の3つを中心に活動を行いました。

01 支援物資



02 炊き出し



03 ボランティアの受け入れと調整



能登半島地震から1年、今年は無事に正月を迎えることができました。最近、被災家屋の解体が進むことで更地が増え、復旧が進んでいるように思えますが、家が無くなることで寂しさを感じます。2年目は「復興元年」となるよう、地域のコミュニティを大事にしながら、地元主体の取り組みを応援していきたいと思っています。

みなし仮設住宅入居者の支援

みなし仮設（賃貸型応急住宅）に入居されている方の多くは、能登町を離れ金沢近郊で仮住まいをされています。地元に戻りたい方や新たな場所を選ばれる方など世帯によって再建地は異なり、地元の復旧状況や復興住宅等の支援制度などの状況も影響するため、その先をどうするか決めかねている方も少なくありません。入居当初は、日中でも訪問出来ましたが、仕事や入園等が決まり、最近は夜間や休日での訪問が多くなりました。





遊び場づくり

子どもたち向けの遊び場づくりを続けています。イベント企画だけではなく、平日も拠点を開放していて、毎月延べ100名以上の子どもたちが遊びに来てくれます。震災1年となる1月1日が近くなると「また地震が来たらどうすればいい?」と話す子もいたり、普段は元気に遊んでいる子たちも震災の影響が消えているわけではありません。



住民主体の取り組みのサポート

時間経過とともに、町外からのボランティアや支援者が少なくなる中で、地元主体の取り組みが増えていきます。「餅米が作れなかった」と聞いて、餅米を届けると「無事正月を迎えることができたら、旧正月に餅をつこう」の合言葉で、2月に仮設住宅の方々と餅つきを行いました。震災があったことでなくなったもの・使えなくなったものが多くありますが、少しのきっかけで、元の暮らしを取り戻すことができると思います。



別府市土砂災害

令和6年台風10号は大分県内で国東市や由布市、別府市等に多大な被害をもたらしました。リエラでは別府市の被災地に出向き、被災者へのヒアリングや床下泥上げ作業の活動支援を実施しました。また、由布市社協には、災害用資機材の貸与を実施しました。

別府市床下泥上げ作業



別府市床下泥上げ作業



防災活動支援 「早めの避難の心がけ」

災害から命を守るために、避難行動が大事になります。特に水害時には早めの避難が重要で、災害前の行動を時系列に確認するタイムラインの取り組みを行っています。



■タイムライン研修(委託:大分県)

水害時のタイムラインの活用に関する研修会を開催しました。また、教職員対象の研修会では、能登町教育委員会から教育現場の災害対応に関する講話もいただきました。



■支えアイ・タイムラインガイドブック作成(委託:大分県)

要配慮者の早期避難を支える「支えアイ・タイムライン」のガイドブックを作成しました。大分県内の有識者の方と内容を話し合い、日田市内の要配慮者にインタビューを行いました。



防災活動支援 「みんなの防災力向上を目指して」

自分の命は自分で守る「自助」が最も大事ですが、みんなで備える「共助」の力も大規模災害では重要になるため、様々な体験を通じてみんなで防災に取り組んでいます。

日田市体験型防災プログラム(委託:日田市)

今年度は、6団体を対象に実施しました。地震に対する防災講演会と組み合わせで体験型防災プログラムの要望が多くありました。



令和6年南海トラフ地震等 防災力向上事業(委託:宇佐市)

地域学習会と中学校避難所運営訓練を実施しました。中学校の体育館を避難所に見立て、困り事を抱えた避難者を中学生が支援しました。



大分大学減災シンポジウム

令和7年2月2日に国東市で「減災シンポジウムin国東」を開催しました。大分大学学生CERDや国東高校生が2040年の国東市の減災社会に向けて若者からの提言を行いました。また、フィールドツアーでは、

国東市長や昭和36年水害体験者から高校生等に防災の重要性について話を伺いました。学生は、初めて聞く過去の災害の様子やこれから想定される南海トラフ等にどう備えるか考えました。



講演会

公民館や社会福祉協議会等からの依頼で、県内・県外の各団体から要請されて行う講演会が年間50回を超えます。能登半島地震の現状や、南海トラフ地震への備えについての防災講演会が増えています。



移住定住支援 移住支え合い事業

みんなで支え合う地域を目指して

地域住民と移住者が垣根なく、平時も有事も支え合いながら安心して暮らせることを目指し、移住前から移住後もサポートできるような様々な形で取り組んでいます。

移居前



「田舎で暮らしてみたいな〜」とふわっとした夢をもち、勇気を出して一歩踏み出したところからリエラの関りが始まります♪

出張相談in福岡



step.01 移住相談

お話を伺いながら移住希望者と理想の田舎暮らしを共有し、少しずつ形にするお手伝い！

step.02 空き家バンク案内・移住体験ツアー・オーダーメイドツアー



10.13~14移住体験ツアーinまえつえ



大明地区体験ツアー

まずはひたの街と人を知ってもらおう！と「家・人・仕事」をご案内。そして「移住前から日田に知り合いをつくろう！」という目的で、体験ツアーにはひた暮らし応援団や先輩移住者にも関わっていただいています。

個々のオーダーをふんだんに取り込んだオーダーメイドツアー

森のようちえんに通わせたい！

移住したら民泊したい！



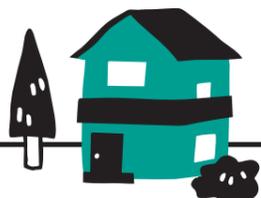
森のようちえん おひさまのはら見学



郷雲 見学

step.03

移住！！



日頃から移住者がリエラにふらっと立ち寄ってくれます♪

移住後

移住したが、言葉や風習の違いから地域に馴染めなかったり、知り合いがいなくて孤独を感じる方が多く、移住後も必要に応じて関りを行っています。日々の相談対応から、移住者の繋がりづくりを目的とした移住者交流会まで、いろいろな角度から場を提供しています。

移住者交流会



女子会と運動会は自然とコミュニケーションが取りやすいと好評で、毎年の恒例となりました。交流会で参加者が繋がり、後日各自で交流をするなどし、ひた暮らしに馴染んで来られたという話を伺うと改めて交流会の意義を感じます。



9.15 移住女子会



11.24 移住者交流大運動会



移住者サポートツールを制作

移住して困ったことは？と移住者に伺ったところ、自分が住む地域の郵便局がネットで検索してもヒットせず市街地まで行った。や、お米を近所の方に頂いたけど精米機がどこにあるかわからないなどと意外な答えが返ってきました。少しでもそのストレスを解消できるよう「移住者マップ」を作成したり、ひた暮らし応援団の冊子を作り変え、「〇〇のことならこの人に！」などというページを新たに作りました。



移住者マップ



ひた暮らし応援団 冊子

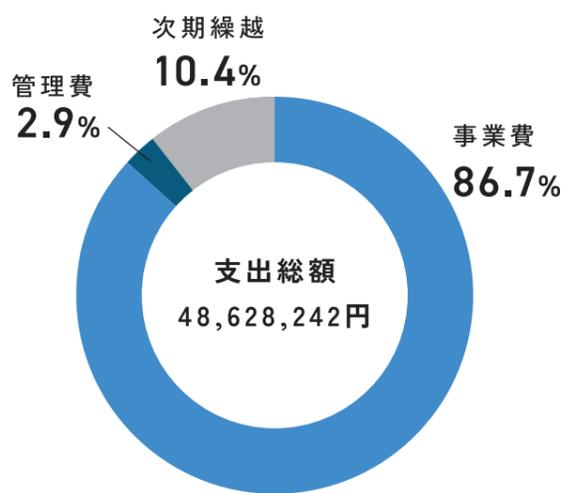
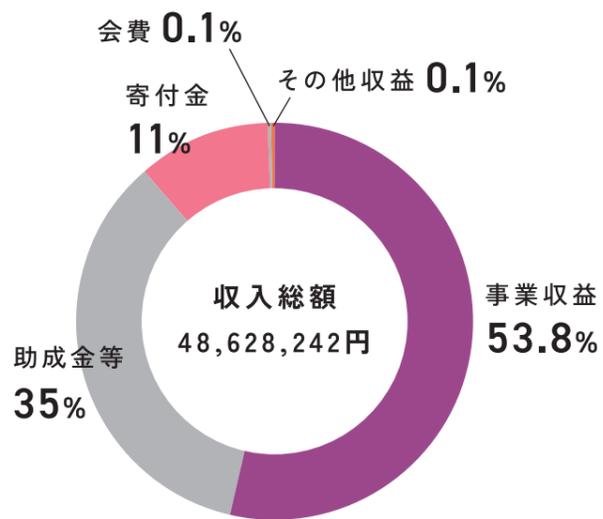
改訂版作成しました！

今後も日田市、ひた暮らし応援団そして地域住民の方々のお借りしながら、移住者のサポートに取り組んでいきたいと思ひます。

活動費・助成



収支報告



事業収益	26,165,037円
助成金等	17,020,000円
寄付金	5,303,307円
会費	50,000円
その他収益	89,898円

事業費	42,204,012円
管理費	1,405,340円
次期繰越	5,048,890円

活動助成団体

公益財団法人 日本財団

○令和6年能登半島地震・奥能登豪雨に関わる支援活動

社会福祉法人 中央共同募金会

○令和6年能登半島地震における能登町ボランティア活動拠点整備事業
○台風10号・奥能登豪雨に関わる支援活動



寄付者一覧 寄付金 (順不同・敬称略)

「指定寄付/令和6年能登半島地震」 大原屋、屋久島サンクチュアリ、(有)キヨタキナーセリー、藤野圭亮、法化図陽一、徳丸一昭、明西寺 原淳亮、本谷るり、(株)後藤製菓、財津幹雄、豊寿園老人会、NPO法人Camper、中津市社協チャリティーイベント、中津市社協三光児童館夏祭り、ボランティアDIWA、生駒大教会、安養寺和久、植木潤一、生活協同組合連合会 コープ北陸事業連合、佐藤美穂、中津豊寿園、引戸充、米田光太郎、石橋恵子、生活協同組合おおさかパルコブ、宿ヶ峰不動明王世話人一同、TOVS、チーム生駒、高瀬鉄也、長 望、豆岳珈琲、福岡被災地前進支援、緑ヶ丘中学校生徒会、中津市立今津中学校生徒一同、大阪よどがわ市民生活協同組合、上ノ原区自治委員会、中津総合ケアセンターいずみの園、中津市社会福祉協議会

「一般寄付」 田中建設株式会社、社会福祉法人みどり会、日本維新の会福岡市議団、隈市営駐車場、学習塾集英館代表湯浅総

